

2026年2月5日
SCSK株式会社

SCSK、愛媛銀行と顧客紹介業務基本契約を締結 ～CO₂ 排出量算定「CO×CO カルテ」で四国地方を中心に中小企業 GX を支援～

SCSK株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役 執行役員 社長:當麻 隆昭、以下 SCSK)は、四国地方を中心にネットワークを持つ金融機関である株式会社愛媛銀行(本社:愛媛県松山市、頭取:西川 義教、以下 愛媛銀行)と、顧客紹介業務基本契約を締結しました。SCSKの CO₂ 排出量算定サービス「CO×CO カルテ(ココカルテ)」と愛媛銀行の金融支援などを連携させ、四国地方を中心に、中堅・中小企業が抱える脱炭素化の課題を解決し、GX(グリーントランスフォーメーション)の実現を加速させます。

協業の背景および提携内容

パリ協定以降、世界的に脱炭素への取り組みが進む中、多くの国内中小企業では、排出量の現状把握が十分に進まないばかりか、具体的な削減目標設定や施策検討にも大きな課題を抱えています。

こうした状況を受け、SCSKは、専門的なデータ収集や作業工数の確保が難しく算定への着手が困難だった企業でも、会計データから容易にCO₂排出量を算定できるサービス「CO×COカルテ」を開発・提供しています。

一方、愛媛銀行は、環境問題への取り組みに関する戦略において、気候変動への対応を重点課題と位置づけています。サステナブルファイナンスの推進や、SDGs 経営立ち上げ支援サービスの提供を通じて、地域の環境問題の解決につながる自律的かつ責任ある取り組みを展開してきました。

本提携により、SCSKが提供する「CO×CO カルテ」を全支店で展開・活用することで、多くの中小企業が直面する「排出量算定」という第一歩の心理的・実務的ハードルを低減します。可視化されたデータを起点に、お客さまごとの経営フェーズに合わせた最適な脱炭素ソリューションや金融支援をスピーディーに提供することで、地域における脱炭素経営の普及・促進に貢献していきます。

【提携イメージ】

- ・ 愛媛銀行による「CO×CO カルテ」の紹介
- ・ SCSKによる排出量可視化サービスおよび活用支援
- ・ 可視化データを活用した脱炭素経営・サステナブルファイナンスの促進

株式会社愛媛銀行について

地域の産業と人々の暮らしを支えていくことを使命とし、預金・融資・為替などの銀行業務を中心に、お客さまに寄り添いながら、地域の発展に貢献する金融・非金融サービスを提供しています。経営理念として「ふるさとの発展に役立つ銀行」「たくましく発展する銀行」「働きがいのある銀行」を掲げ、気候変動をはじめとする環境・社会問題を経営の最重要課題として位置づけ、サステナビリティ経営を実践しています。県内の堅固な経済基盤と地域との信頼関係のもと、産官学金の多様な連携を通じて環境負荷低減に取り組み、脱炭素による持続可能な社会の実現を目指しています。

<https://www.himegin.co.jp/>

CO×COカルテ について

CO×COカルテは、企業が保有する会計データをクラウドサービスへアップロードするだけで、独自開発したアルゴリズムがCO₂排出量を算定するサービスです。専門知識やツール操作が不要なため、属人化を防ぐとともに、CO₂排出量算定にかかる業務負担を軽減します。また、排出量と連動する経費を可視化することで経営改善を支援します。排出量可視化を起点として中堅・中小企業の脱炭素活動を支援し、脱炭素対応を“負担”から“成長機会”へと転換することを目指しています。

<https://www.scsk.jp/sp/cocokarte>

【特徴】

- (1)算定対象範囲:Scope1、Scope2、Scope3(カテゴリ 1～8。サプライチェーン排出量上流も把握可能)
- (2)金額ベースの算定だけでなく、物量ベース(実エネルギー使用量等)の入力機能あり
- (3)排出原単位や算定方法は環境省ガイドライン※1に準拠
- (4)CO₂排出量およびこれに連動する経費も可視化(脱炭素化とコスト削減の両立も支援)
- (5)第三者機関による妥当性確認済※2

※1 サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン

※2 国際規格(ISO14064-3)に基づく妥当性を第三者機関(SGSジャパン)が確認

本件に関するお問い合わせ先

SCSK株式会社

ビジネスデザイングループ

GX センター CN 事業推進部 松田・功刀・齋藤

E-mail:env-support@scsk.jp

※ 掲載されている製品名、会社名、サービス名はすべて各社の商標または登録商標です。